

池田市文化財調査報告

第 3 輯

五月丘古墳

1980.3

池田市教育委員会

発刊にあたって

近年、急激な地域開発に伴い、各地において、埋蔵文化財の発掘調査が盛んに行なわれ、保存対策が講じられております。

本市においても、宮ノ前遺跡、茶臼山古墳、娘三堂古墳等が大阪府教育委員会及び地元の皆様の協力のもとに保存されてきました。

ここに報告します五月ヶ丘古墳については2回にわたって調査を実施しました。第1回目は、昭和48年3月8日より3月27日まで、大阪府教育委員会が主体となり、池田市教育委員会が協力して、遺跡確認調査を実施しました。第2回目は図書館、資料館建設のための再調査を昭和54年8月1日より8月11日まで、本市教育委員会が実施しました。

本市教育委員会では、昭和55年4月に池田市立歴史民俗資料館の開館にあたり、五月ヶ丘古墳の欠損していた石室を復原及び封土の一部の整理、屋根と柵などの施設を完成させ、一般公開し、出土品の陶棺及び須恵器は池田市立歴史民俗資料館に展示します。

本調査報告書の発刊により文化財愛護への一層の理解と協力を願うものであります。おわりに、発掘調査からこの報告書の発刊に至るまで、ご尽力を賜わりました調査主任 富田好久先生、調査員 橋高和明先生、ご助言いただいた帝塚山短期大学助教授 田代克己先生、ならびに直接調査にあたられた学生、生徒の皆さんに深く感謝申し上げます。

昭和55年8月31日

池田市教育委員会

教育長 片山久男

例　　言

1. 本書は大阪府池田市五月丘1丁目10番12号の五月ヶ丘古墳の復原調査報告書である。
2. 調査は2回にわたり実施した。第1次は大阪府教育委員会主体で、池田市教育委員会の協力で、昭和48年8月8日より同月27日まで、遺跡確認のため発掘調査を行った。第2次は池田市教育委員会が、昭和54年8月1日より同月11日まで復原調査を実施した。
3. 第1次調査は調査主任 水野正好（当時大阪府教育委員会文化財保護課主査）、調査員 奥野義雄（当時元興寺仏教民俗資料研究所）、及び当時池田市文化財専門委員 富田好久が協力して行なった。第2次調査は調査主任 富田好久（池田市文化財保護審議会副会長、府立渋谷高校教諭）、調査員 橋高和明（池田市文化財保護審議会委員、市立池田中学校教諭）と関西大学・北里大学・市立池田中学校地歴部の学生・生徒諸君が調査に参加した。
4. 本書の作成は富田好久、橋高和明が担当した。遺物遺構の実測は富田和広、北村敏章が担当し、製図・写真は富田好久、橋高和明が担当した。
5. 第1次調査に関する写真・資料は大阪府教育委員会と調査主任の了解を得て使用した。
6. 復原調査は池田市文化財保護審議会、竹中工務店、地元関係者の大きな協力を得た。
7. 報告書出版に関しては、社会教育課の多大な協力を得た。
8. 表紙の題字は池田市助役小伏輝男先生にお願いしました。

本文目次

I 調査の契機と経過.....	1
1. 調査の契機.....	1
2. 調査の経過.....	2
II 位置と環境	5
III 調査の概要	7
1. 外形	7
2. 内部構造	8
3. 出土遺物	9
(1) 陶棺	9
(2) 須恵器(杯)	10
IV 総括.....	11

図版目次 (本文対照頁)

図版一 五月ヶ丘古墳の景観.....	13
図版二 第1次調査の石室と陶棺.....	14
図版三 第2次調査による石室	15
図版四 復原された石室1	16
図版五 復原された石室2	17
図版六 出土遺物 陶棺	18
図版七 出土遺物 陶棺の孔と文様	19
図版八 出土遺物 陶棺の内部と須恵器	20

插 図 目 次

第 1 図 地 鎮 祭	2
第 2 図 発 掘 風 景	2
第 3 図 陶 棺 出 土 状 況	2
第 4 図 現 地 説 明 会	2
第 5 図 復 原 調 査 前 の 地 形	3
第 6 図 古 墓 実 測	3
第 7 図 復 原 の 発 掘 風 景	3
第 8 図 古 墓 の 石 室	3
第 9 図 旧 石 室 の 石	4
第 10 図 石 室 の 復 原 作 業	4
第 11 図 石 室 の 復 原 中	4
第 12 図 石 室 の 実 測	4
第 13 図 池 田 市 内 古 墓 分 布 図	5
第 14 図 五 月 ケ 丘 古 墓 付 近 の 地 形 図	6
第 15 図 五 月 ケ 丘 古 墓 の 地 形 実 測 図	7
第 16 図 古 墓 石 室 実 測 図	8
第 17 図 古 墓 石 室 東 西 断 面 図	8
第 18 図 古 墓 石 室 南 北 断 面 図	9
第 19 図 陶 棺 実 測 図	10
第 20 図 須 恵 器 実 測 図	11

I 調査の契機と経過

1. 調査の契機

本書で報告する五月ヶ丘古墳は、池田市五月丘1丁目にある。この古墳は五月山丘陵の南麓の尾根を利用して築造されている。北西に茶臼山古墳と娘三堂古墳が同一線上にある。これらの古墳は早くから知られていたが、五月ヶ丘古墳は知られていなかった。

昭和30年になってこの古墳の付近が柿畠であったので、施肥などの作業中に石室や陶棺が発見されたが、当時は場所のみ確認し埋め戻されていた。

昭和48年に株式会社東急不動産が、この地を開発することとなったのを機に、池田市教育委員会が大阪府教育委員会に連絡し、府教育委員会と池田市教育委員会が、現土地所有者に対して遺跡の存否の確認調査をすることを協議し、その結果大阪府教育委員会が調査主体となり、池田市教育委員会とて調査することとなり、昭和48年8月8日より、同月27日まで発掘調査を行った。その結果、石室、陶棺、須恵器を検出したので、陶棺、須恵器は復原して五月山児童文化センターに展示し、石室は現地に埋め戻し保存することとなる。

昭和53年池田市立歴史民俗資料館建設にあたり、古墳と資料館が近いため、池田市教育委員会が主体となり、昭和54年8月復原調査を行った。欠損していた石室を復原し、封土の一部も整備し、屋根と柵など施設を完成し、石室を一般公開し陶棺と須恵器は資料館に展示することとなる。

五月ヶ丘古墳復原調査組織

調査主体 池田市教育委員会

調査責任者 片山久男 池田市教育委員会教育長

調査主任 富田好久 文化財保護審議会副会長、府立渋谷高校教諭

調査員 橋高和明 文化財保護審議会委員、市立池田中学校教諭

調査補助員 橋高任（豊中第七中学校講師）、富田和広（関西大学学生）、北村敏章（北里大学学生）

参加者 池田市立池田中学校地盤部部員

調査事務

事務局長 政井学 社会教育課課長

事務担当者 奥野祐司 社会教育課主幹

事務担当者 藤井隆晃 社会教育課主事

事務担当者 酒井一彦 社会教育課

2. 調査の経過

7月27日 金曜 (晴)

調査参加予定者が公民館にて、発掘調査及び復原整備の準備についての打ち合わせを行なう。



第1図 地鎮祭

8月1日 水曜 (晴)

午前9時に池田中学校にて器材を車に積込み、現地に向かう。市教委藤井氏と器材について確認する。午前中テントを張る場所の草刈りを行なう。午後より、地形測量を開始した。



第2図 発掘風景

8月2日 木曜 (晴)

本日より、本格的に調査を開始する。地形測量と並行して、前回調査された主体部及び周辺の表土はぎを行なう。その際、須恵器小片が出土。



第3図 陶棺出土状況

8月3日 金曜 (雲)

午前中に地形測量を完了する。午後より、横穴式石室の上部面を検出する作業を行なう。並行してこの石室の西側壁を利用して作られた石垣より、石室の復原作業に必要な石を回収する。



第4図 現地説明会

8月4日 土曜（曇）

復原後建てられる予定の建築物の範囲を確認。石室内部の土砂を取り除く。午後より、市文化財保護審議会委員の辰己氏が来られ、辰己氏の指導により、石室の復原を行なう。



第5図 復原調査前の地形

8月6日 月曜（曇）

復原された石室及び周辺の整備を行なった後、写真撮影を行なう。石室の主軸の延長線と、東西に石室と直交してトレンチを各1本設定。

また、石室と掘り方との関連を確認するため、トレンチの掘り下げ作業開始。一方、石室の実測開始。



第6図 古墳実測

8月7日 火曜（曇）

実測のため石室内の排土作業中、羨道部より須恵器片1個と石室中央部より土師器片1個が出土した。復原された石室（南壁）の $\frac{1}{10}$ の実測図をつくる。奥壁（鏡石）の $\frac{1}{10}$ の実測図もつくる。



第7図 復原の発掘風景

8月8日 水曜（晴）

現存していた石室（北壁）の $\frac{1}{10}$ の実測図をつくる。北壁は2段まで残っていたが、あと2段ぐらいあったと推定される。



第8図 古墳の石室

8月9日 木曜 (晴)

復原された石室の $\frac{1}{10}$ の平面図をつくる。奥壁(鏡石)断面図 $\frac{1}{10}$ をつくる。古墳の封土の復原作業をする。天井石と羨道閉塞石は失われている。



第9図 旧石室の石

8月10日 金曜 (曇)

午前中石室内の清掃後復原の小砾を入れる。古墳全体の清掃後に写真撮影。午前10時より資料館の地鎮祭があり、その後参加者が約20名見学に来る。午後古墳に屋根をつくり、公開施設ができるまでの保護作業を行なう。



第10図 石室の復原作業

8月11日 土曜 (晴)

五月山児童文化センターにて、陶棺、須恵器の各 $\frac{1}{10}$ の実測図作成、同遺物の写真撮影。本日で調査を終了し、以後報告書作成の研究。



第11図 石室の復原中



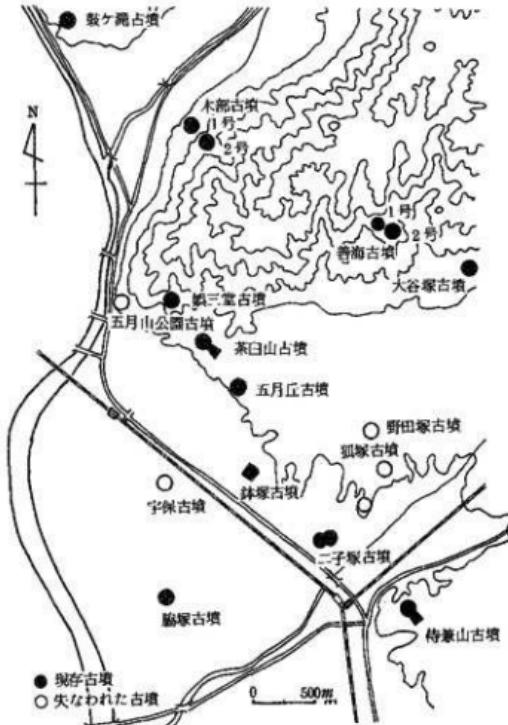
第12図 石室の実測

II 位置と環境

五月ヶ丘古墳は、池田市五月丘1丁目に位置し、南東に面して鎮座する吳服神社の西端の斜面にある。現在、阪急池田駅より約1kmの市道五月丘中央線に沿った、北の山手のところにある。

古墳の立地は老ノ坂山地の一部をしめており、久安寺川の谷によって東にわかれ五月山の南側に広がる、海抜約50～100mの五月台地の南西の小文丘陵尾根上の1つとしてつくられた古墳である。

近接する前期古墳としては、北側に竪穴式石室を有する池田茶臼山古墳があり、北西には娘三堂古墳がある。また、猪名川をはさんで西側の長尾山系には、万願山



第13図 池田市内古墳分布図

古墳・長尾山古墳などの前方後円墳がある。

古墳時代に先行する弥生時代の遺跡としては、南部の中期を中心とする宮ノ前遺跡があり、後期に入ると、高地性集落の可能性の強い五月山公園遺跡、愛宕神社遺跡などがある。中期古墳は存在しない。

当古墳の属する古墳時代後期に入ると、五月山の北側の細河地区の山麓に木部1号墳、2号墳があり、須恵器が出土している。また、南麓には最近確認された善海1号墳、2号墳がある。

その他、台地から平野部にかけては、宇保古墳、池田二子塚古墳、鉢塚古墳などがありそのうち池田二子塚古墳は、全長70mの双円墳であり、両丘に横穴式石室が存する。また上円下方墳と考えられる鉢塚古墳は、大阪府下最大の玄室の高さを持つ巨大な横穴式石室で、高さ約5mの玄室内部には、中世の十三重の石塔がおさめられている。このような、巨大な玄室の例としては、和歌山県岩橋天五塚、熊本県大野窟古墳、奈良県乾城古墳などがある。

五月ヶ丘古墳の遺物の特色である陶棺を伴う古墳としては、北摂周辺では、太古冢、新免宮山北塚など、豊中市に多く見られる。

このように、五月ヶ丘古墳をとりまく考古学的環境の多さに加え、陶棺を出土した点から見ても、資料価値は高い。



第14図 五月ヶ丘古墳付近の地形図
(・印は五月ヶ丘古墳)

III 調査の概要

1. 外形

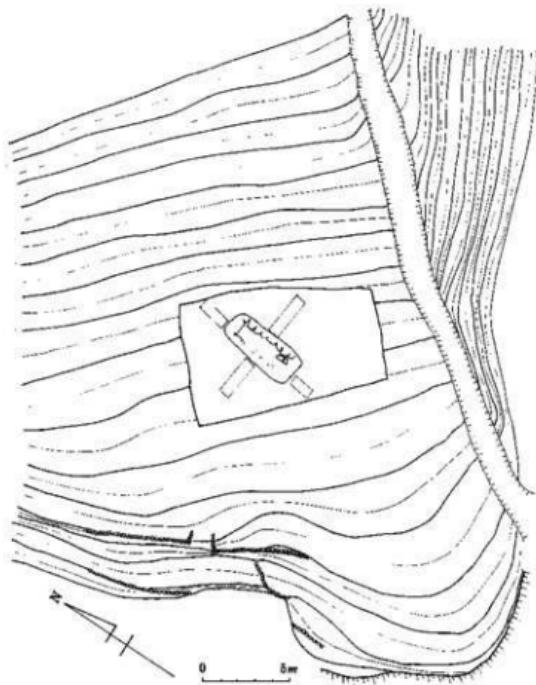
古墳は五月山南麓の丘陵の先端で等高線 60 m のところである。この丘陵は果樹園で古墳のあったところは、柿畠であった。従って開墾、植込み、施肥などのため封土はほとんど失なわれていた。

地形実測の結果、古墳のあるところは、南北で約 1 m の高低差があり、東西で 50 cm の高低差があったが、推定では約 8 m の直径をもつ小円墳であることが石室の長さから推定される。

古墳の主軸の方向は、遺跡確認の発掘調査で、陶棺を伴う横穴式石室であるこ

とから、北東 - 南西
線である。

古墳の外部施設は何もなかったようである。昭和 80 年代に古墳ということがわからず、古墳の天井石や側壁の石を掘り出し、約 10 m 下方のところに、土どめに石垣として使用していた。なお、天井石や陶棺の蓋に関するものは発見できなかった。



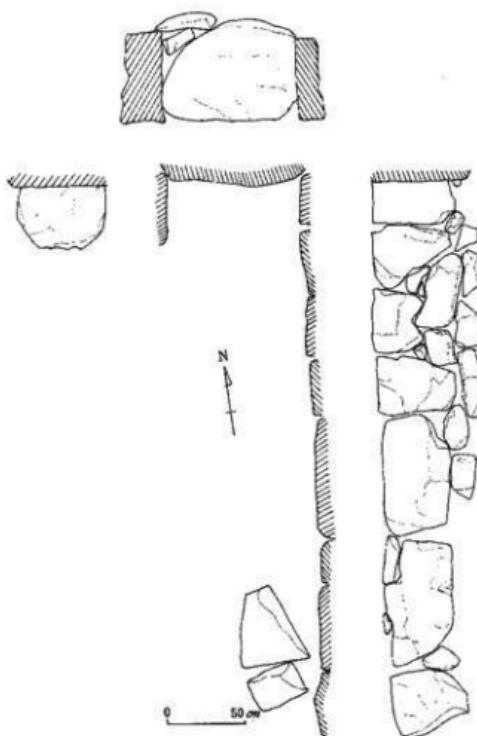
第15図 五月ヶ丘古墳の地形実測図

2. 内部構造

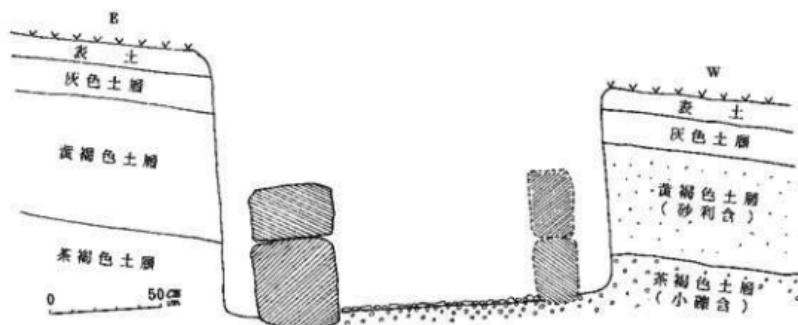
古墳の内部主体は、封土の流出、過去における土取りや斜面の石垣に用いるために石がとられているため、石室の過半が破壊され、現状では奥壁・東壁と西壁の一部を残すのみである。

石室内の堆積土などの状態は、再発掘であるために判然としないが、石室、床面について、陶棺の下に小礫が残っていたので、全面を覆っていたと考えられる。また、排水溝のような施設は全く見られなかった。

内部構造、ならびに、その構築法についてであるが、天井石及び西側壁のはほとんどを失っているため、断定はできないが、一応主軸を N-7°-E にとる無袖形式の横穴式石室と考えられる。



第16図 古墳石室実測図



第17図 古墳石室 東西断面図

残存している石室の内部規模を見てみると長さ 3.5 m、幅 0.9 m、高さは残存高 0.7 m である。

奥壁は、比較的厚めのがっしりした鏡石 1 枚と小石 2 個を用い、東側は一部を欠損しているが、3 段積で築かれていることがわかる。

基底石は、わりあい大きめの割石及び自然石を用いており、その上 2 段は、小石の割石でもって築かれている。羨道部は不明であるが、閉塞石と考えられる石が 2 個残存していた。

石室全体の構築法を調べるために、奥壁及び側壁の背後を調査したが、裏組みなどの施設はなく、基底石の下部にも、別段の施設はなかった。

石室の構築にあたって、地山を掘り込み、そこで、半地山半置土によって、床面の基盤を整形して基底部とし、奥壁から順次、側壁へ石材を積み上げていったものと考えられる。

なお、西側壁の痕跡も調査したが、明確なものは確認できなかった。

以上のように、五月ヶ丘古墳の内部主体は狹小な平面プランを持つ、南面する小型の横穴式石室に、陶棺を納めたものであるという事がわかるが袖の有無については確認できなかった。



第18図 古墳石室 南北断面図

3. 出土遺物

(1) 陶 棺

陶棺とは粘土を焼きかためて作った棺で、主として横穴式石室をもつ古墳に埋葬されていることが多い。陶棺はその形態から分類すると亀甲形、家形、特殊型の 3 つに分けることができる。

家形陶棺は、蓋の形によって切妻式、四注式の 2 つに分けることができる。また焼成により区分すると、十師質と須恵質とある。

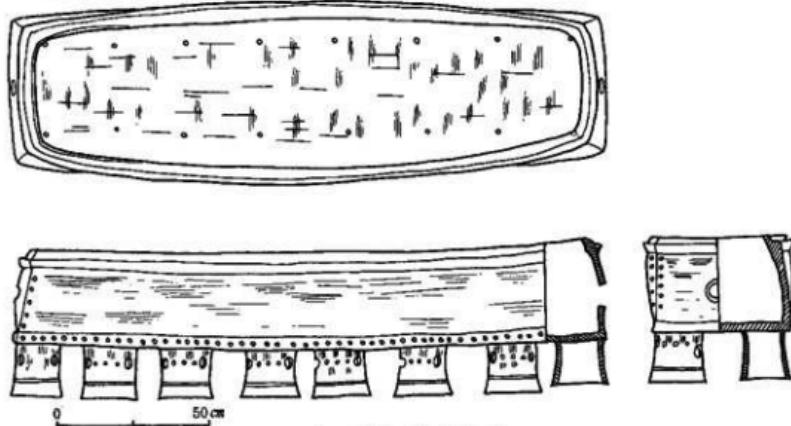
五月ヶ丘古墳は横穴式石室であり、陶棺は須恵質の家形四注式である。陶棺

の棺身は定形で、長さ 195 cm、幅は両端とも 46 cm、中央は 60 cm で高さは 46 cm で胸が張っている。棺壁及び底の厚さ 2 cm、棺の深さ 30 cm、棺の上縁に溝があり蓋を受けるようになっているが、残念ながら蓋は失なわれている。

脚は 2 列あって 1 列 8 本で総数 16 本である。各脚の径は 20 cm、高さ 16 cm、厚さ 1.5 cm の円筒形である。各脚に径 2 cm の孔が 2 つあるが、これは焼成上のものであろう。棺身の底に 0.5 cm の小孔が 16 個あるが、その位置は脚の中央部にあたるところで、棺内の排水のために、棺内の水を小孔から円筒状の脚の中に落すためであろう。

棺身の前後に径 5 cm の大きな孔がある。普通は蓋の部にある例が多いが、前後の例は少ない、これは焼成上というよりも、何か思想的なものと考えられる。

棺身の各縁と脚の上部に 1 列の竹管文が装飾されている。棺身の内と外にハケ目が残っており、脚の下部には 2 本の沈線文がある。陶質は須恵質で色調は淡灰色で質は堅緻である。



第19図 陶棺実測図

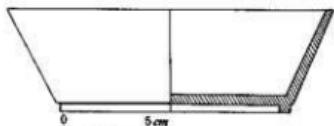
(2) 須恵器(杯)

杯は身のみで蓋はない、杯の質は須恵質で色調は暗灰色で質は堅緻である。

口径は 17.8 cm、底径 12.5 cm、高さ 5.5 cm、底の厚さは 0.5 cm である。口縁部は横になじんで丸く終る。体部は付高台より直ちにまっすぐに外傾している。

森浩一氏の須恵器編年によると、Ⅳ式後期にあたり、追葬の可能性もある。杯

の出土地点は羨道部であり、土師器片も出土している。



第20図 須恵器実測図

IV 総 括

猪名川流域に於ける陶棺を伴った古墳は、今日7か所で、豊中市5、池田市1、川西市1である。旧摂津国に範囲を拡大しても、吹田市2、芦屋市1、三田市1、大阪市1くらいである。

所 在 地	陶 棺 種 類	所 有 者
豊中市新免官山北塚古墳	須恵賀家形四注式 - 1基	豊中市教委
豊中市野畠太古塚古墳群（岸本塚）	須恵賀家形四注式 - 4基	豊中市教委
豊中市野畠太古塚古墳群（防潮塚）	須恵賀家形四注式 - 1基	豊中市教委
豊中市野畠太古塚古墳群（金塚）	須恵賀家形四注式 - 1基	豊中市教委
豊中市野畠太古塚古墳群（不明）	不 明	大英博物館
吹田市竜ヶ池窯跡	須恵賀陶棺（製作地）- 1基	吹田市教委
吹田市糸迦池窯跡	須恵賀陶棺（製作地）- 1基	吹田市教委
芦屋市八十塚A号墳	須恵賀家形四注式 - 2基	芦屋市教委
大阪市四天王寺中門基壇盛土内	土師賀陶棺脚 - 1脚	
宝塚市平井古墳群	須恵賀陶棺片 - 3片	宝塚市教委
三田市東山古墳	須恵賀家形四注式 - 1基	関学大蔵
池田市五月ヶ丘古墳	須恵賀家形四注式 - 1基	池田市教委

石室と陶棺の関係についてみると、陶棺を安置しているこの石室は、規模小さく
狭道入口も完形では残っていない。

石室の主軸は北東－南西の方向で、石室の長さは8.45cm、幅は0.9mである。
これに対して陶棺は長さ195cm、幅は46cmでその幅の差は44cmである。陶棺の
高さは46cm、石室の高さは天井石と側石も上方を失っているので不明である。

以上のことから、石室を築造した後、上より陶棺を入れ、後に天井石と封土を覆
ったと考えられる。このように埋葬方法から見ると竪穴式石室といえるが、石室の
築造方法は横穴式石室の方式である。従って古墳時代後期末で陶棺を単葬する場合、
石室は横穴式方式で、陶棺の埋葬方法は竪穴式であったようである。

被葬者を入れる棺は重視されているが、陶棺を保護する石室の方が退化してゆく
のが早かったとも思われる。やがて棺も退化し、雲雀丘古墳の箱式組合せ石棺につ
ながってゆくと思われる。

古墳の築造年代は、石室の構造、陶棺の形式、須恵器の様式などから総合すると
7世紀代のものと推定される。

なお、この古墳の被葬者については、当時、当地方勢力をもつ秦氏一族の中間的
階層の誰かであろう。

参考資料

『池田市史』 池田市（昭和46年）

『池田茶臼山古墳』 池田市文化財調査報告書 第1輯（昭和45年）

『大阪府史』 大阪府（昭和58年）

『池田郷上研究』 第4号 池田郷土史学会（昭和52年）



五月ヶ丘古墳の遠景



石室と地形

図版二 第一次調査の石室と陶棺



石室と陶棺



石室全景

図版三 第二次調査による石室



再調査によって現われた石室



石室東壁

図版四 復原された石室一

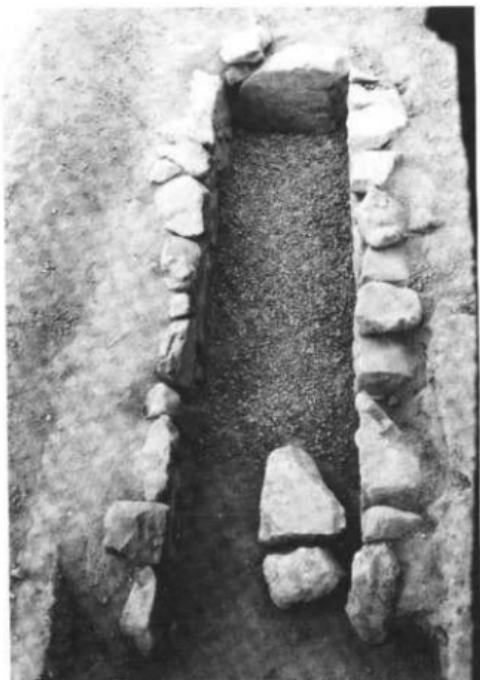


復原石室全景



復原石室の西壁

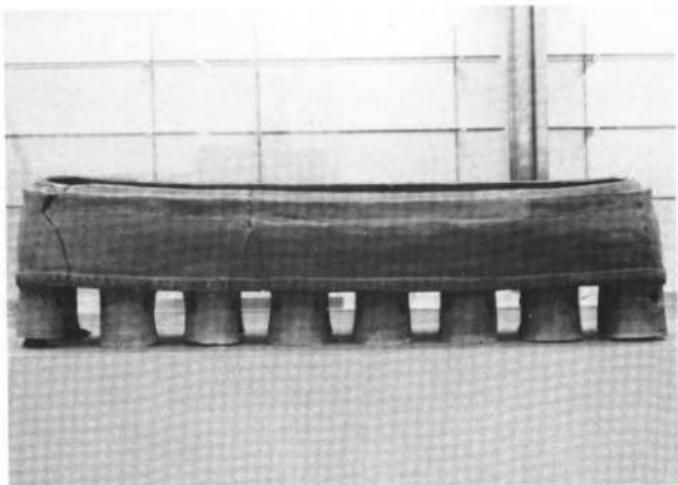
図版五 復原された石室二



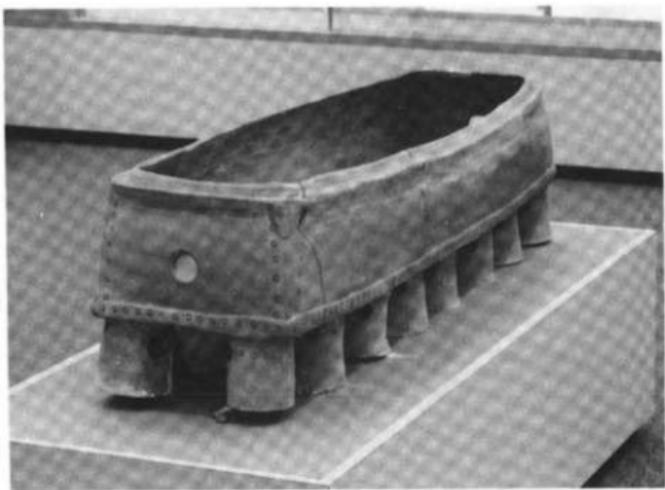
復原石室の全景



復原石室の西壁

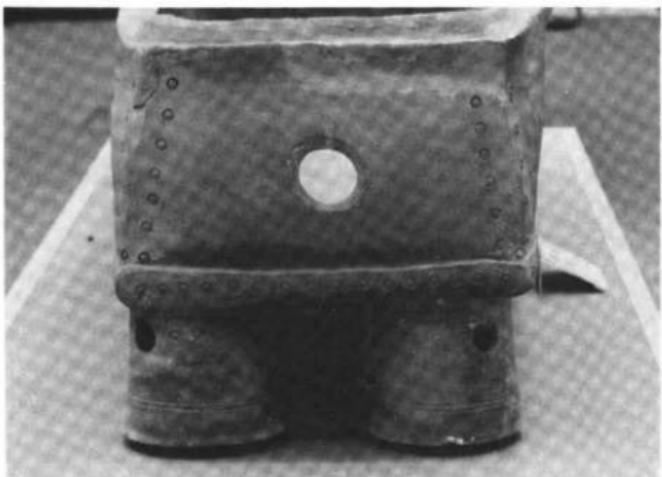


陶 棺（横からみたところ）

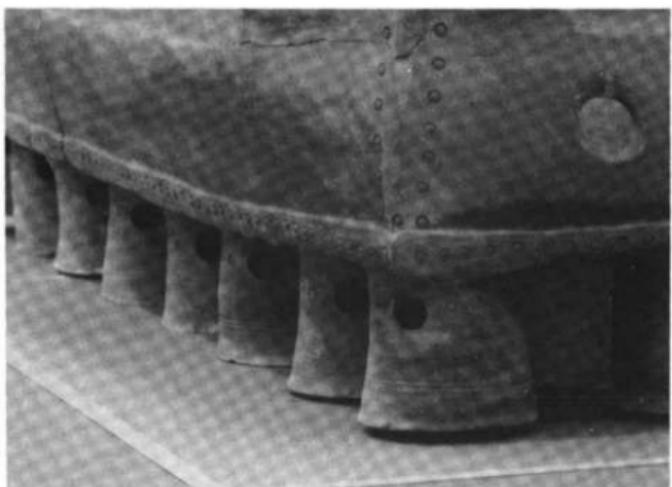


陶 棺（上からみたところ）

國版七 出土遺物 陶棺の孔と文様



陶棺側面の大孔

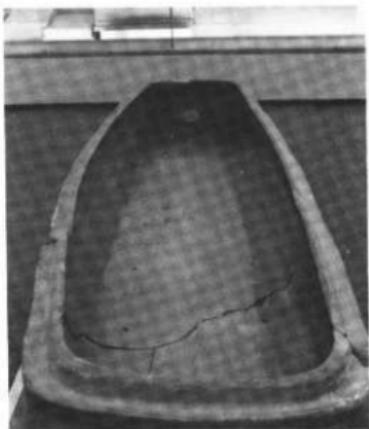


陶棺の脚と竹管文

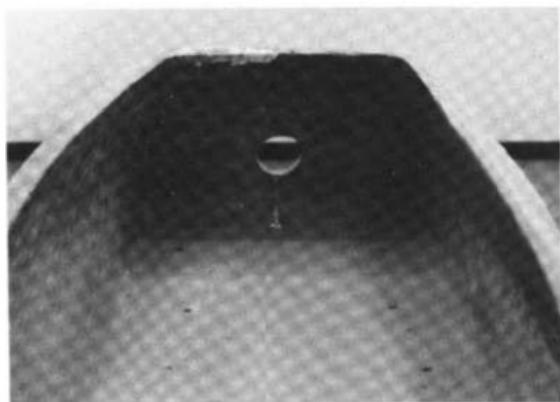
圖版八 出土遺物 陶棺の内部と須恵器



須恵器



陶棺 内部 の 小孔



陶棺 内部 と ハケ文様

昭和55年8月20日 印刷

昭和55年8月31日 発行

五月ヶ丘古墳復原調査報告書

編集者 池田市教育委員会

発行者 池田市教育委員会

印刷 大阪市大淀区中津2丁目2番26号
やまかつ株式会社